

エコチル調査：環境省子どもの健康と環境を考える全国調査 —開始から10年、子どもの未来はどうなるのか？—

エコチル調査の目的

1. 化学物質のばく露等が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているかを明らかにすること。
2. 次世代の子どもが健やかに育つ環境を実現すること
3. 小児の脆弱性を考慮したリスク管理体制を構築すること

エコチル調査の成果（一例）

【調査方法】

- 化学物質に着目した出生コホート研究
- 94,810人の子どもが参加、13歳まで追跡
- 父母の血液、母乳、児の尿、血液、毛髪等の化学物質分析

【論文成果（令和3年5月時点）】

- 全国データを用いたもの：176編
- 中心仮説に関するもの：17編

【妊娠・生殖、先天形態異常】

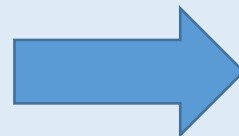
- 妊娠中の適度な運動と、早産・帝王切開・器械分娩のリスクとの関連
- 妊娠中の殺虫剤・防虫剤の使用と、児の出生体重、身長増加量との関連性
- 妊婦の血中鉛濃度と児出生時の体重・身長等との関連
- 妊婦の血中カドミウム濃度と、女児の出生時体重との関連

【精神神経発達、免疫・アレルギー】

- 妊娠中のハウスダスト忌避行動と出生児の精神神経発達との関連
- 妊娠中の自宅の増改築と児の1歳までの喘鳴の発生頻度との関連

今後の展望

1. 多くの成果を上げた本調査を総括
2. 小児期以降の健康と環境における課題の抽出
3. 本調査を小児期以降に展開する上での課題を抽出



今後の基本方針と成果を効果的に社会へ還元するための方策を取りまとめる。